

令和5年度第2回(第37期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和5年10月16日(月)午後13時から15時45分
- 2 開催場所 籠玉協働センター 講座室・ホール
- 3 出席状況
- 委員 晝馬るみ委員、近藤潤子委員、中村朋子委員、
松本孝久委員、松井里華委員、飛田ひさ子委員、
村上剛委員、山本巖委員、李受眞委員
- 事務局 嶋野文化振興担当部長、加藤生涯学習担当課長、
中村生涯学習推進グループ長、
袴田指導主事、名波主任、石塚主任
- 欠席委員 澤根緑委員
- 4 傍聴者 0人(一般:0人、記者:0人)
- 5 議事内容
- 1 「地域学校協働活動ボランティア講座」について
 - 2 浜松市における地域学校協働活動の充実について
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ
袴田陽太
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

- 1 開会
- 2 講座視察 地域学校協働活動ボランティア講座
「ボランティアとは?東日本大震災での中学生の取り組み事例」
「個別に配慮が必要な子供への対応」
- 3 議事
 - (1) 「地域学校協働活動ボランティア講座」について
 - (2) 浜松市における地域学校協働活動の充実について
 - 事務局から、地域学校協働活動及び地域学校協働活動ボランティア講座について説明

(晝馬委員長)

ただ今、ご覧いただいた講座について御意見・御感想を聞かせていただきたい。

(村上剛委員)

「個別に配慮が必要な子供への対応」の講座はもっと聞いていたい講座だった。これからの社会は、障害の有無に関わらず、誰もが分け隔てなく生活できる共生社会を目指している。学校や地域でも、こういう人だと決めつけず、ゆっくり温かい目で見守っていくことが大切だと思う。もっと多くの方々に聞いてもらいたい内容であった。

(中村朋子委員)

学校の要望に応じた講座が開かれていることを知らなかった。もっと周知していくべきである。

(松井里華委員)

今回の講座内容はボランティアの方だけではなく、子育て世代等、多くの立場の方に聞いてもらいたい内容であった。「感謝して感謝されて幸せになる」という前堀先生の言葉が印象的であった。

(李受眞委員)

「ボランティアとは？東日本大震災での中学生の取り組み事例」の講座から、ボランティアのあり方について、深く考えることが出来た。行政はボランティアをやりたいという方の自主性を尊重し、活動しやすい仕組みづくりをしていくべきである。

(山本巖委員)

本日の講座は、学校・地域の課題に的確に応じた講師となっており素晴らしかった。今後、各地区で開催される地域学校協働活動ボランティア講座の際、講師の人選が重要になると思う。日々、多くの教職員が個別に支援が必要な児童生徒に接しているため、本日の講座の内容を教員も聞く機会があればよい。

(近藤潤子委員)

ボランティアでは、一步を踏み出すきっかけが重要だと感じた。地域で人材を育成・発掘していく事の大切さを実感した。

(飛田ひさ子委員)

地域の子供たちを地域で育てていく地域学校協働活動を推進していくことは、素晴らしいと感じた。何か自分に出来る出来ないか考え、地域を良くしたいという思いで高台ワピ会を始めたが、知らず知らずのうちに自分たちも地域学校協働活動を支えていることに感激した。浜松には子供たちを見守る組織が多くあるが、地域間で差があることも事実である。

(事務局)

今後、浜松のどの地域でも万遍なく、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進していきたい。

(晝馬委員長)

学校の困りごとに対するニーズから、今回のボランティア講座開催までの流れをもう少し話していただきたい。

(事務局)

学校支援コーディネーターから、個別に配慮が必要な子供たちに関する研修を受けたいという声があった。その声を協働センター職員が聞き、講座を開催することになった。学校、協働センター、当課と講座開催を委託しているエキゾチッククラブで事前に打ち合わせをし、その内容に沿って委託先が講師を決めた。今回は、学

校支援ボランティアの方々のスキルアップが第一の目的である。

(飛田ひさ子委員)

ボランティアのスキルアップというのは、素晴らしいと思う。講座があることで、ボランティアの人たちが自分のやっていることを再認識できる。

(晝馬委員長)

地域学校協働活動ボランティア講座は、学校や協働センターから提案があったのか、事務局からの依頼かどちらか。

(事務局)

地域学校協働活動ボランティア講座は学校・協働センターにあまり周知されていない。その為、こちらから協働センターに働きかけた。今年度は、校長会、各区の所長会議で周知している。また、来年、2月に開催される地域学校協働活動ボランティア講座成果報告会でも周知していきたい。

(晝馬委員長)

地域・学校・行政のあり方を含めて、地域学校協働活動をよりよくするための意見を聞かせて頂きたい。

(山本巖委員)

浜松市における地域学校協働活動は、教育総務課が所管する学校支援コーディネーターと協働センター及びふれあいセンターの職員との連携により、地域人材の情報共有を図りながら、学校支援活動を実施しているという説明が事務局側からあったが、「地域人材の情報共有」について、講師のリストはどうなっているのか教えて頂きたい。

(事務局)

学校支援コーディネーターは教育委員会が所管する「ひとづくりネットワーク」を利用している。一方、協働センターは、本課が所管する生涯講習講師リストを利用している。地域学校協働活動を行う際、講師が必要な場合は両者の情報を共有していきたい。

(晝馬委員長)

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進するにあたり、地域と学校のどちらが主体となるのがよいのか。

(松本孝久委員)

地域と学校が対応な立場、パートナーとして係わるのが理想である。今までは、学校の事は学校にまかせるという雰囲気が社会にはあったように思う。これからの社会では学校と地域がパートナーとなるため、まずはお互いを知る機会として地域の意見を学校が聞く場、学校の意見を地域に伝える場があるとよい。

(晝馬委員長)

地域側の意識として、地域の子供達を地域で育てるという意識を、町内会や自治会がもつことが必要だと思う。

(松本孝久委員)

地域を支える人を育てることを、学校だけに任せず、地域でも意見を出し合い、学校と連携・協働していくことが必要である。

(飛田ひさ子委員)

地域からすると学校は、敷居が高く感じる。学校に伝えたいことがあっても、なかなか言いにくい。

(松本孝久委員)

学校も地域に開かれてきている。ご意見がある場合は、是非学校に伝えていただ

きたい。

(中村朋子委員)

自分はコミュニティ・スクールの委員で、先日2回目の会議があった。地域の子供をどのように育てたいかについて話あり、多くの意見が出た。地域の意見を学校に伝えていく事がこれからは大切である。学校だけではなく、地域でも子供たちを育てられる場や機会をつくる必要がある。

(晝馬委員長)

地域の人は、学校への関り方を知らないケースが多い。

(村上剛委員)

子供が学校を卒業して以来、現状、学校との関りは全くない。回覧板で学校の情報を知ることはあるが、学校の活動をもっと地域に知ってもらう方法等が必要ではないか。

(松井里華委員)

保護者の立場からすると、学校からの便りにはよく目を通すと思う。地域からお知らせを学校を通して出すことはできないか。

(事務局)

協働センター主催の子ども講座は学校を通して配布されている地域もある。学校と地域の連携・協働が進めば可能だと思う。

(松本孝久委員)

浜松市としては、「地域学校協働本部」を設置はしないのか。

(事務局)

文部科学省では「地域学校協働本部」の設置を推奨しているが、設置には地域学校協働活動推進員を委嘱することが要件となる。浜松市では、地域学校協働活動推進員の役割を補完的に担う学校支援コーディネーターや協働センター等職員が活躍しており、本部に相当するようなネットワークも一部の地域で形成されつつあるため、地域学校協働本部の設置予定は現状では、ない。しかし、地域間で差があることは事実であるため、浜松の全ての地域で学校と協働センターの繋がりを強めていき、地域学校協働本部に相当するネットワークをつくっていきたい。

(晝馬委員)

市内で地域学校協働本部に相当するネットワークの先行事例を、他の地域に広める工夫はあるか。

(事務局)

今年度は、地域学校協働活動ボランティア講座成果報告会という形で周知していく。

4 連絡事項

■事務局から以下の内容について連絡

- ・第65回全国社会教育研究大会宮崎大会について
- ・第54回関東甲信越静岡社会教育研究栃木大会について
- ・次回開催予定 地域学校協働活動ボランティア講座成果報告会

2月7日(水) 13:30~15:30 <会場:浜松市教育会館>

5 閉会